

序論

第1章 はじめに

1 計画策定の趣旨

現在、我が国では急速に進む人口減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、活力ある社会を維持する「地方創生」の施策を進めています。

本町においても、平成27年9月に岩美町地域創生総合戦略を策定し、人口減少対策を強力に推し進めていますが、中山間地を中心とした少子高齢化の進行や若者の町外への転出により、平成27年に行われた国勢調査では11,485人と、平成22年調査に比べ877人の減少となっており、依然として厳しい状況にあります。

一方で、平成25年度から放映されたテレビアニメのロケ参考地になり、多くのアニメファンが来町するとともに、平成27年度には田舎暮らしを提案する民間雑誌の「住みたい田舎」ランキングで全国総合第1位となるなど、観光客や交流人口が増加しており、移住者も徐々に増加しています。更には、平成29年からJR西日本が運行する豪華寝台列車「トワイライトエクスプレス瑞風」がJR東浜駅に停車するなど、今後も多くの注目を集めることが期待されます。

このような状況のなか、本町が継続して発展し続けるには、現状をしっかりと捉え、まちの将来像や様々な課題を町民と共有し、協働のまちづくりを推進していく必要があります。

また、本町では、昭和46年に第1次総合計画を策定し、経済・社会情勢など時代の変化に対応しながら9次にわたる総合計画により、町民との協働による住みよいまちづくりを推進してきました。

平成28年度をもって終了する第9次総合計画では、「人がつながり 心をつなぎ 未来へつなげる 岩美町」を基本理念とし、町民一人ひとりがまちづくりの主角となって、人とつながり心をあわせ、様々な分野で力を発揮することで、恵まれた自然環境を守り、産業を発展させ、快適で活力ある自立したまちを目指してきました。

この計画期間中には、地域高規格道路「山陰近畿自動車道」駈馳山バイパス等の開通や道の駅「きなんせ岩美」の開業、山陰海岸ジオパークの再認定など本町が発展していくための大きな礎ができました。

第10次岩美町総合計画は、第9次までの総合計画を継承し、より一層、町民と協働により様々な課題に取り組み、町民が快適で心豊かに暮らせるまちづくりを推進し、更なるまちの発展につなげるための指針として策定しました。

2 計画の性格と役割

この計画は平成29年度から平成38年度までの10年間に及ぶ長期的な展望に立ち、本町が目指すべき将来像やまちづくりの基本的方向及び方策を明らかにするものです。国の施策・経済動向は刻一刻と変化しており、予測しがたい点も多く、計画実施に当たっては弾力的に運用するものとします。

(1) 町においては、町行政の総括的かつ基本的な指針となります。

(2) 町民においては、地域づくりへの参画方法などを明らかにし、自主的・積極的な活動を進めるための指針となります。

3 計画の構成と期間

この計画は、平成 29 年度を初年度とし、向こう 10 年間の「基本構想」、5 年間の「基本計画」3 年間の「実施計画」で構成しています。

(1) 基本構想

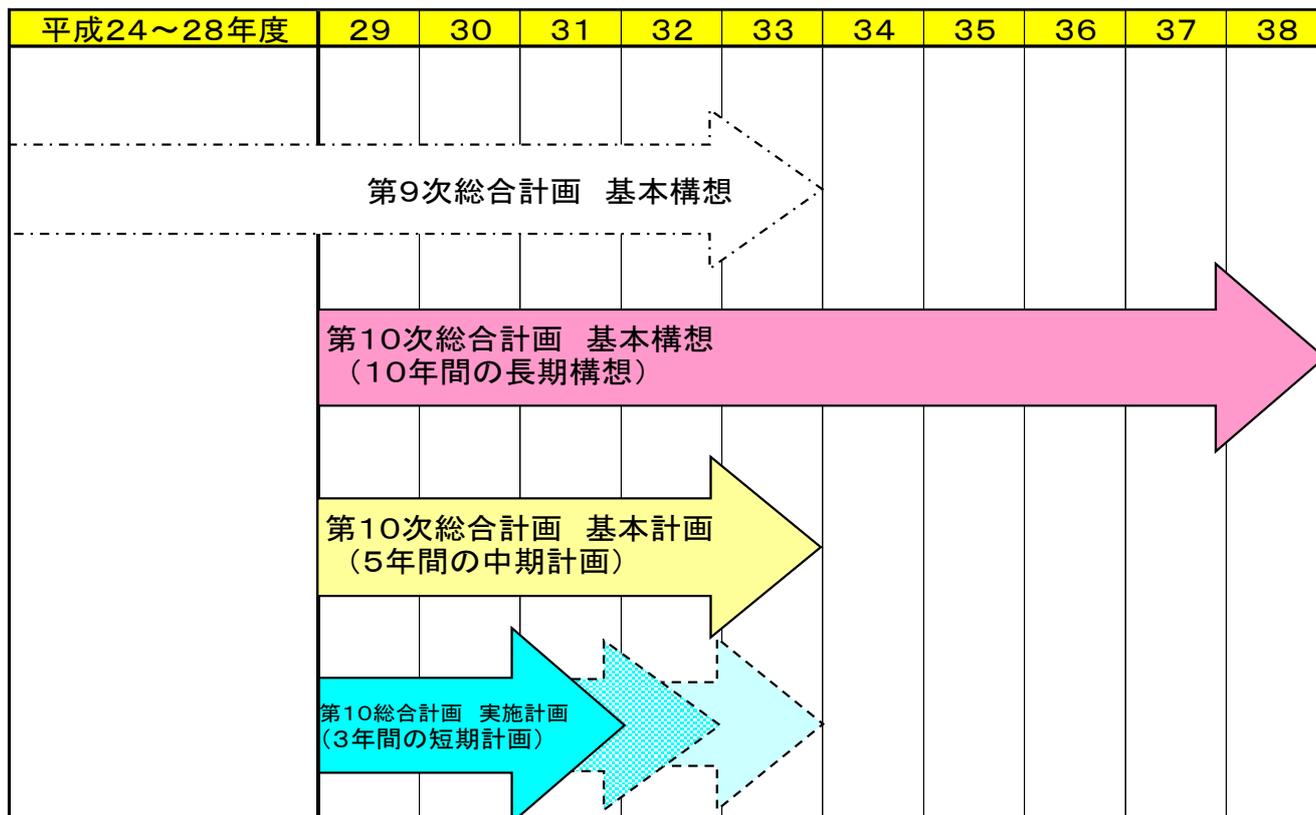
基本構想は、平成 38 年度を目標としたまちづくりの基本目標と岩美町の姿を示し、その実現のための行政及び町民の取り組むべき基本方針を明らかにするものです。

(2) 基本計画

基本計画は、平成 29 年度から平成 33 年度までの 5 年間の中期計画とし、基本構想を具体化するための必要な施策について、事業内容を体系的に明らかにするものです。

(3) 実施計画

実施計画は、基本計画に示された施策を現実の行財政のなかにおいて実施するための 3 年間の短期計画とし、ローリング方式により年次ごとに定め、個々の具体的な施策・事業について、その規模、経費等を明らかにするものです。



第2章 岩美町の現状と課題

1 岩美町の概要

(1) 位置

本町は、鳥取県東部に位置し、北は日本海に、南と西は鳥取市、東は兵庫県美方郡新温泉町に接しています。

町域面積は、122.32km²で、中国山地の扇ノ山・河合谷高原から続く山地と、これに源を発する蒲生川・小田川が形成する沖積平野からなり、海岸部は複雑な岩石海岸と砂浜海岸で構成されています。日本海に面する東西約15kmの浦富海岸をはじめ、本町の全域が平成22年10月に世界ジオパークネットワークに認定された「山陰海岸ジオパーク」の一部となっています。



(2) 気候

気候は、日本海側気候の特徴を示し温暖ですが、冬は北西の季節風が強く降雨・降雪が多く、夏は高温多湿で晴天の日が続きます。

過去5年間（H23～H27）の平均気温は14.1℃で平均年間降水量は2,335mmです。

	H23	H24	H25	H26	H27	平均
平均気温 ℃	14.0	13.8	14.4	13.8	14.5	14.1
年間降水量 mm	2,909	2,453	2,227	2,128	1,960	2,335

(気象庁ホームページ（鳥取県岩井アメダス）)

(3) 沿革

本町は、昭和29年7月、浦富町・岩井町・東村・田後村・網代村・大岩村・本庄村・小田村・蒲生村の2町7村が合併して誕生しました。

平成の大合併では全国的に市町村合併が進むなか、平成15年10月単独自立を決定し、現在に至っています。

2 岩美町の現状

(1) 人口・世帯

本町の人口は昭和30年の20,460人から人口減少が始まり、昭和50年までに約4,000人減少しています。その後10年間は16,000人程度で落ち着いていましたが、再び人口減少が続き、平成27年には11,485人となり、今後も人口減少が続くと推測されます。

世帯数は、昭和40年の3,718世帯から平成12年4,001世帯、平成17年4,045世帯と増加傾向にありましたが、平成22年に減少に転じ、平成27年には再び増加しています。

人口・世帯数の推移(国勢調査)

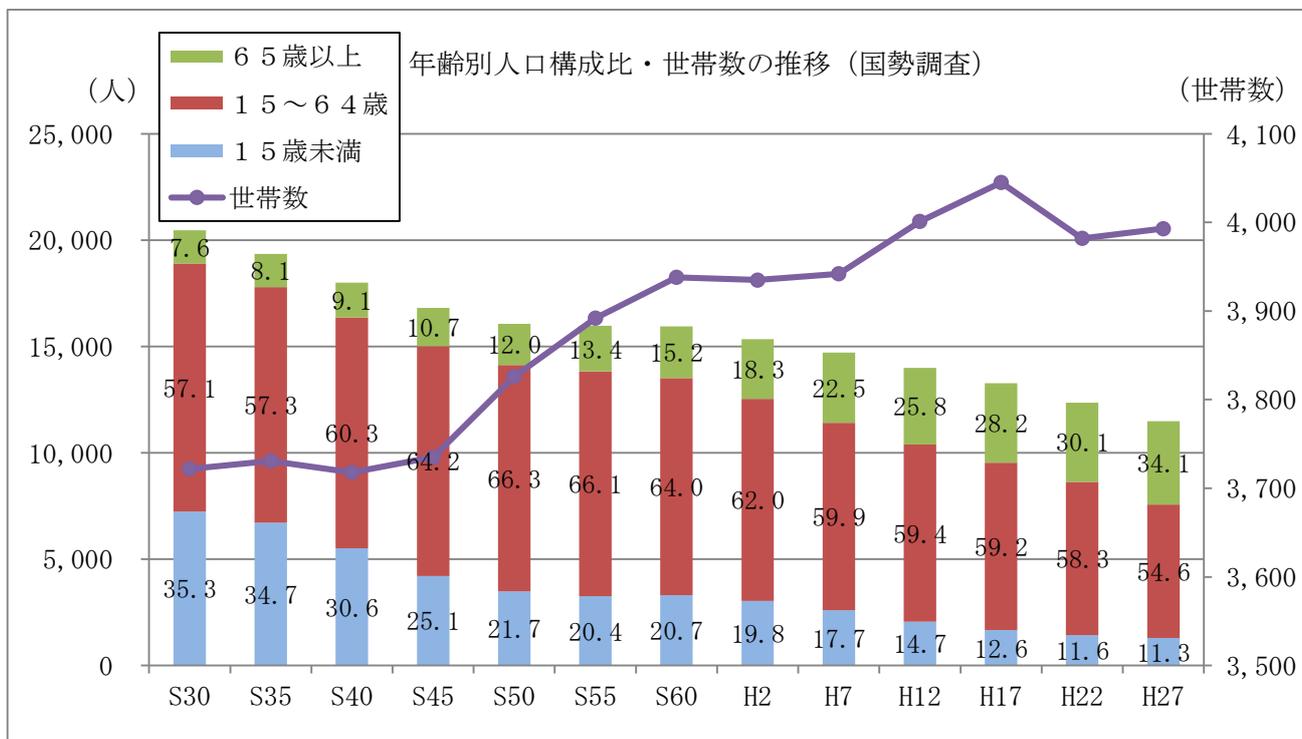
年 度	S30	S35	S40	S45	S50	S55
人 口 (人)	20,460	19,350	18,004	16,817	16,063	15,969
世帯数(世帯)	3,722	3,731	3,718	3,735	3,826	3,892

年 度	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27
人 口 (人)	15,944	15,342	14,713	14,015	13,270	12,362	11,485
世帯数(世帯)	3,938	3,935	3,942	4,001	4,045	3,982	3,993

(2) 年齢別人口構成

年少人口（15歳未満）割合は、昭和30年の35.3%（7,232人）から平成22年11.6%（1,432人）、平成27年11.3%（1,295人）と減少しています。

一方、高齢者人口（65歳以上）割合は、昭和30年の7.6%（1,555人）から平成22年30.1%（3,721人）、平成27年34.1%（3,920人）と増加しており、少子高齢化が進行しています。



(3) 人口動態

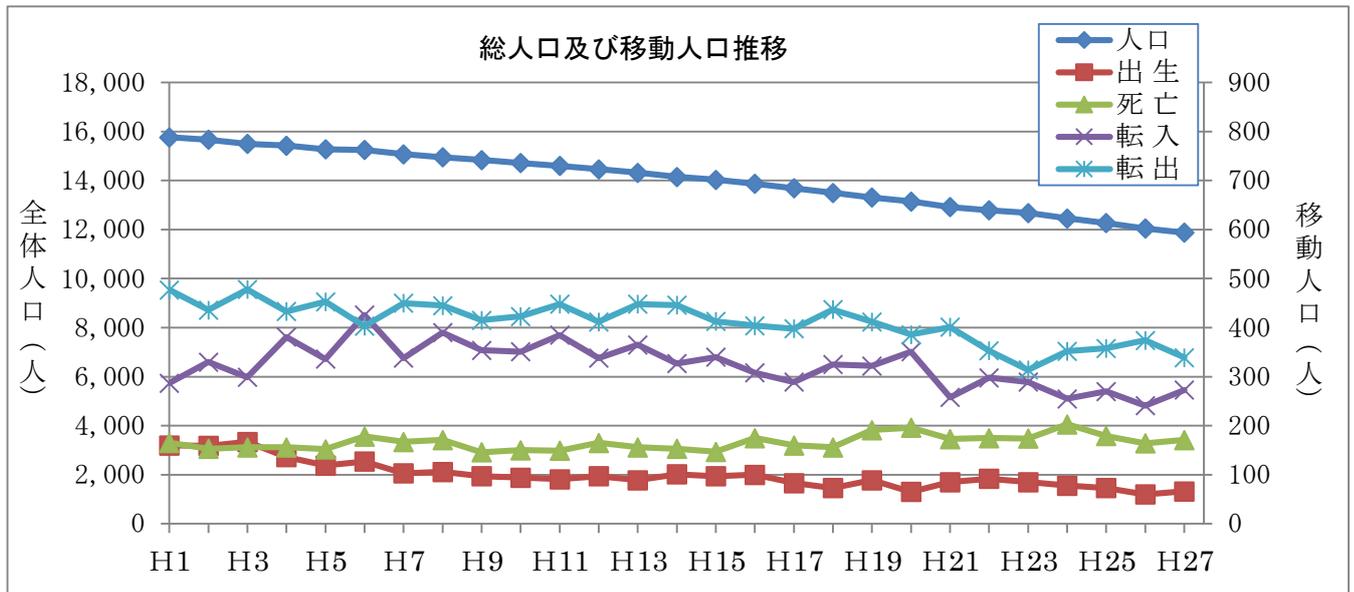
人口動態は、出生数と死亡数の差である「自然増減」と転入数と転出数の差である「社会増減」に起因します。近年の人口動向においては、「自然減少」と「社会減少」が続いており、同程度の減少がみられます。

①自然増減の動向について

自然減少の主な要因は「出生数の減少」です。平成元年度に160人であった出生数は平成27年度には63人と半分以下になっている一方、平成元年度に165人であった死亡者数は増加傾向にあります。このため、平成27年度には約100人の減少となり、今後も減少は増えていくと予想されます。

②社会増減の動向について

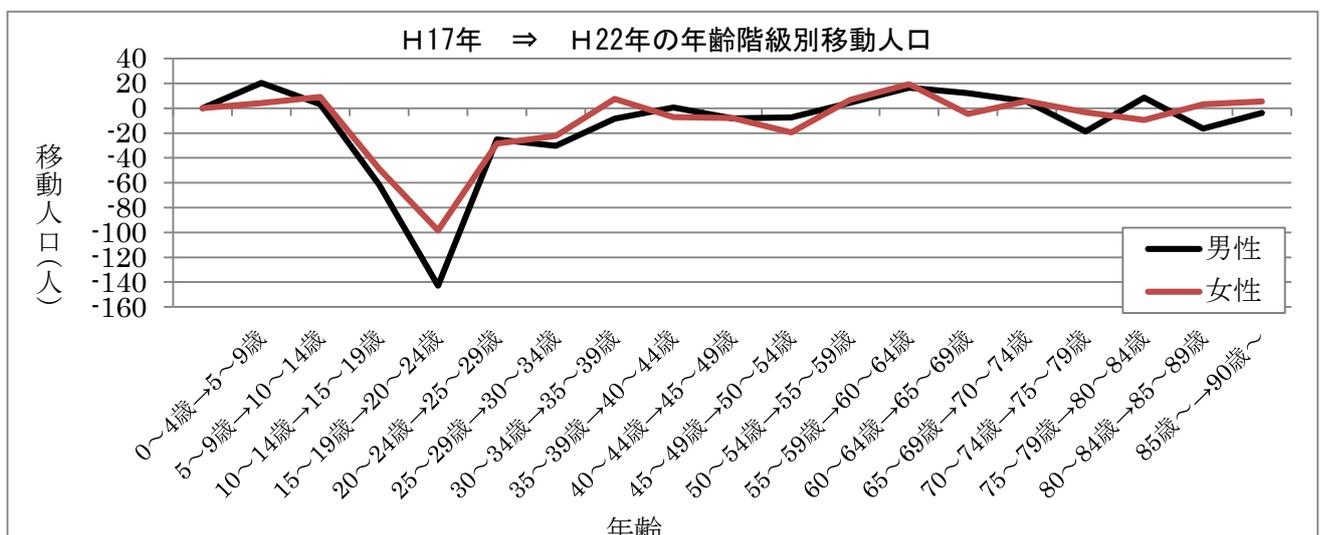
社会減少は、転出が転入を上回ることによるものです。平成元年度から現在に至るまでほぼ毎年転出超過が生じており、平成27年度においても約60人の減少がみられました。

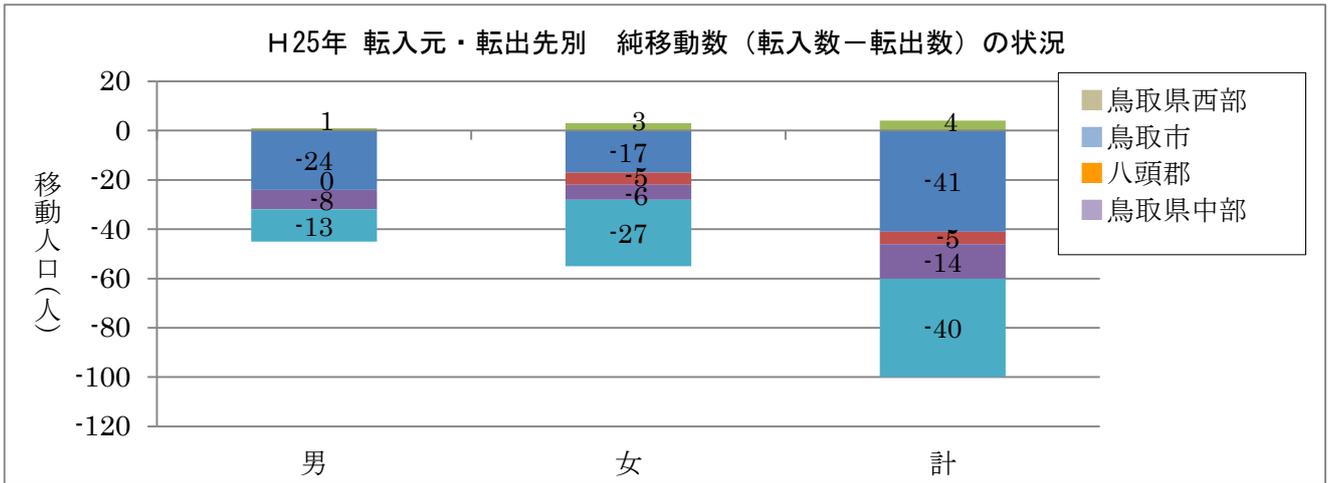


(4) 人口流動

本町の移動人口をみると15～19歳の人口が5年後の20～24歳になる時点で大きく減少しており、転出した人数は男女あわせて240人にもなります。また、平成25年度における転出先として鳥取市が全体の4割以上を占めています。

また、通勤・通学先は46.2%が町外で、そのほとんどが鳥取市となっています。





通勤通学先

		人数(人)	割合(%)
県内	町内	3,002	49.5
	鳥取市	2,817	46.5
	その他	91	1.5
県外	新温泉町	105	1.7
	その他	51	0.8
合計		7,129	100

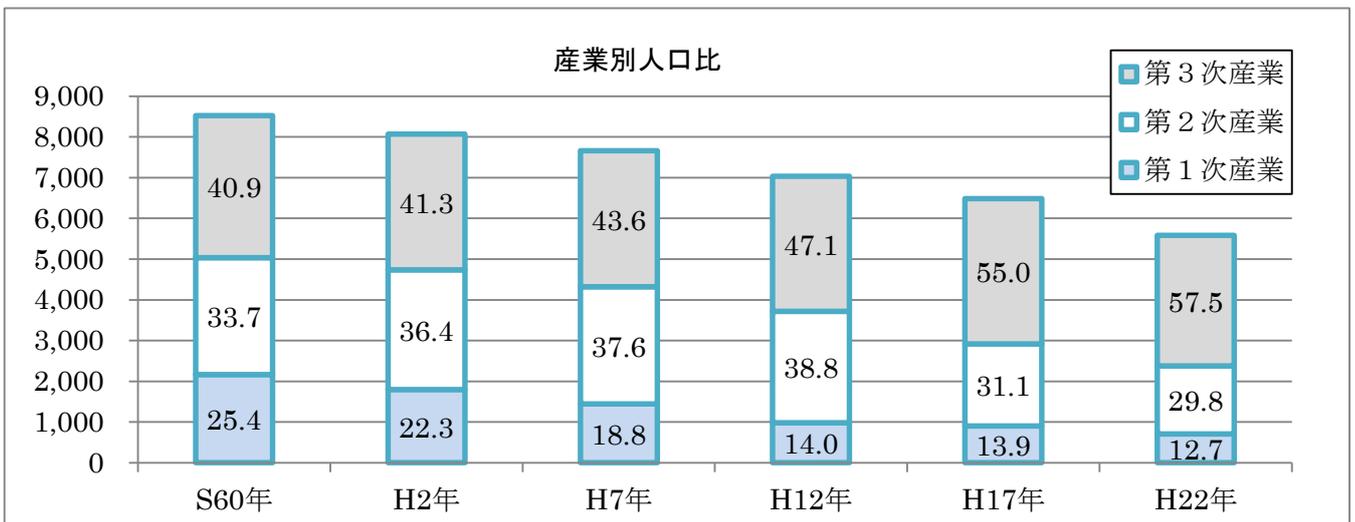
(5) 産業構造

総人口の減少に併せて、就業者も減少傾向にあります。

第1次産業就業者の割合は昭和60年の25.4%(2,168人)から平成22年12.7%(709人)と減少している一方で、第3次産業就業者の割合は年々増加しています。

また、全産業の売上高・従事者数に占める漁業の売上高・従事者数の割合が高い一方で、製造業の売上高・従事者数に占める食料品製造業の売上高・従事者数が低い傾向にあります。

- ・全産業の売上高に占める漁業売上高の割合(岩美町:5.6%、全国:0.1%未満、鳥取県:0.5%)
- ・全産業の従事者数に占める漁業従事者数の割合(岩美町:7.8%、全国:0.1%未満、鳥取県:0.4%)
- ・製造業の売上高に占める食料品製造業の売上高の割合(岩美町:0.1%未満、全国:8.6%、鳥取県:24.9%)
- ・全産業の従事者数に占める食料品製造業従事者数の割合(岩美町:0.9%、全国:13.3%、鳥取県:24.9%)



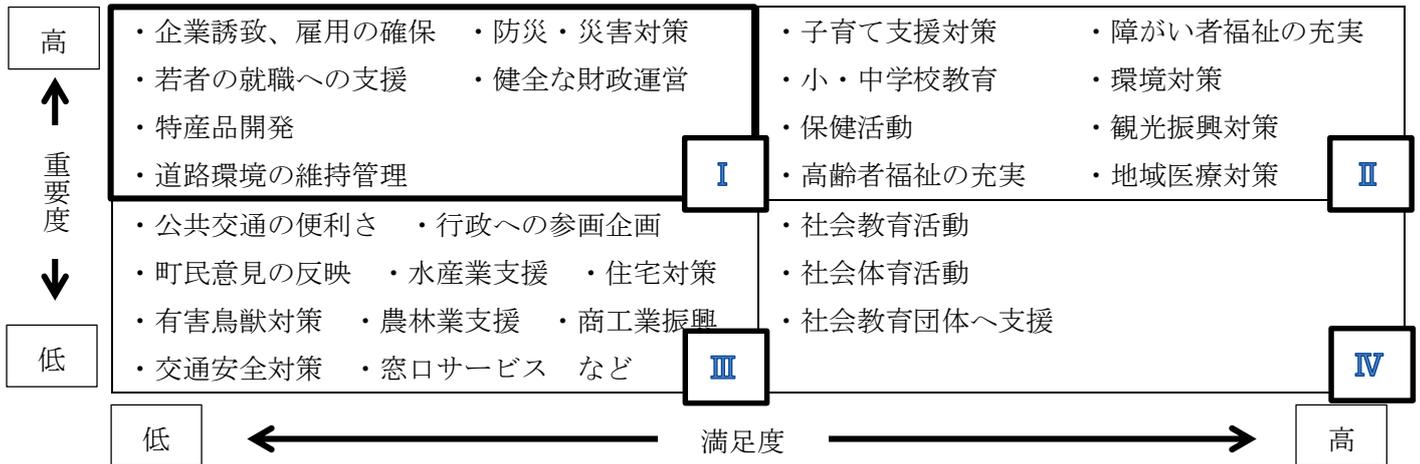
3 町民アンケートの結果

平成 27 年 4 月に町民 1,500 人を対象として、「岩美町での暮らしや仕事、地域活動への参画」、「町施策への満足度、重要度」などについてアンケートを行いました。回答率は 39.5% でした。

また、平成 27 年 5 月には岩美中学生全生徒 306 人を対象に「岩美町の好きなおとこ」、「将来の岩美町への希望」などについてアンケートを行いました。

(1) 施策の重要度と満足度について

※各施策の重要度、満足度について回答していただき、その結果に応じて I～IV の領域に分類



I の領域に分類される雇用、就職、防災などが、重要度が高いにもかかわらず満足度は低く、今後の優先度が最も高いと考えられます。

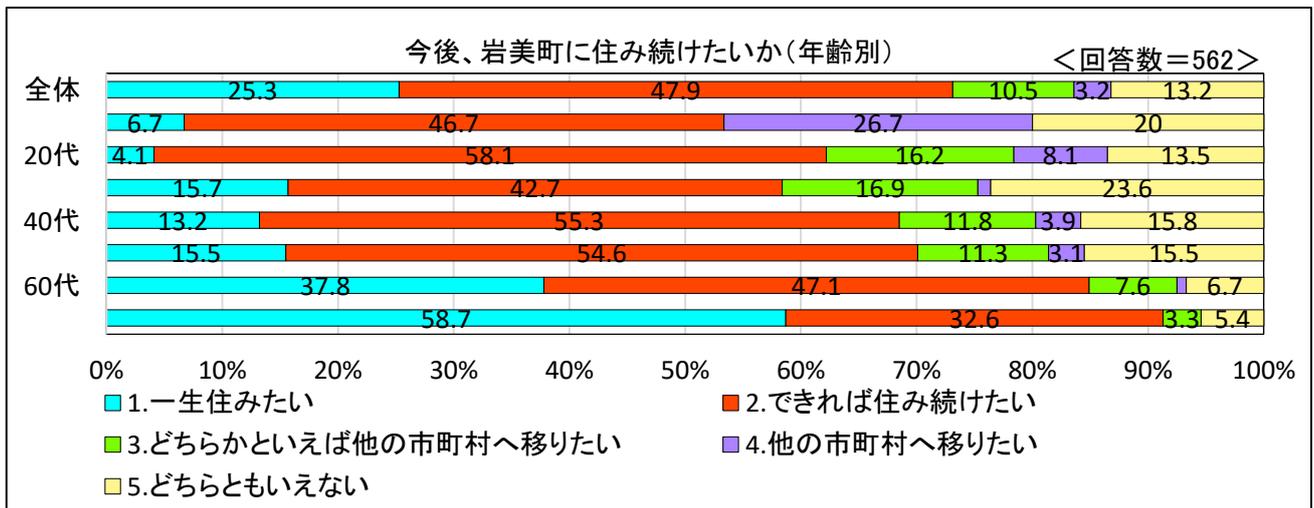
II の領域に分類される福祉、医療、教育、子育て、環境などの生活に必要な分野は重要度と満足度が共に高く、この満足度を維持する必要があります。

また、5 年前に行ったアンケートと比較すると観光振興などの分野で満足度が高まっているのに対し、農林水産業や商工業の振興といった産業の分野では満足度の向上が見られませんでした。

(2) 暮らしについて

「一生住みたい」、「できれば住み続けたい」が 73.2% で、5 年前のアンケートより 1.2% 増加しましたが、若い年代ほど「住み続けたい」と回答する割合が低い傾向にあります。

また、住みやすい理由として、「自然が豊かで環境がよい」、「災害等が少なく、安心して生活できる」などがあり、住みにくい理由として「公共交通機関の便が悪い」、「職場がない、職場が遠い」などがありました。

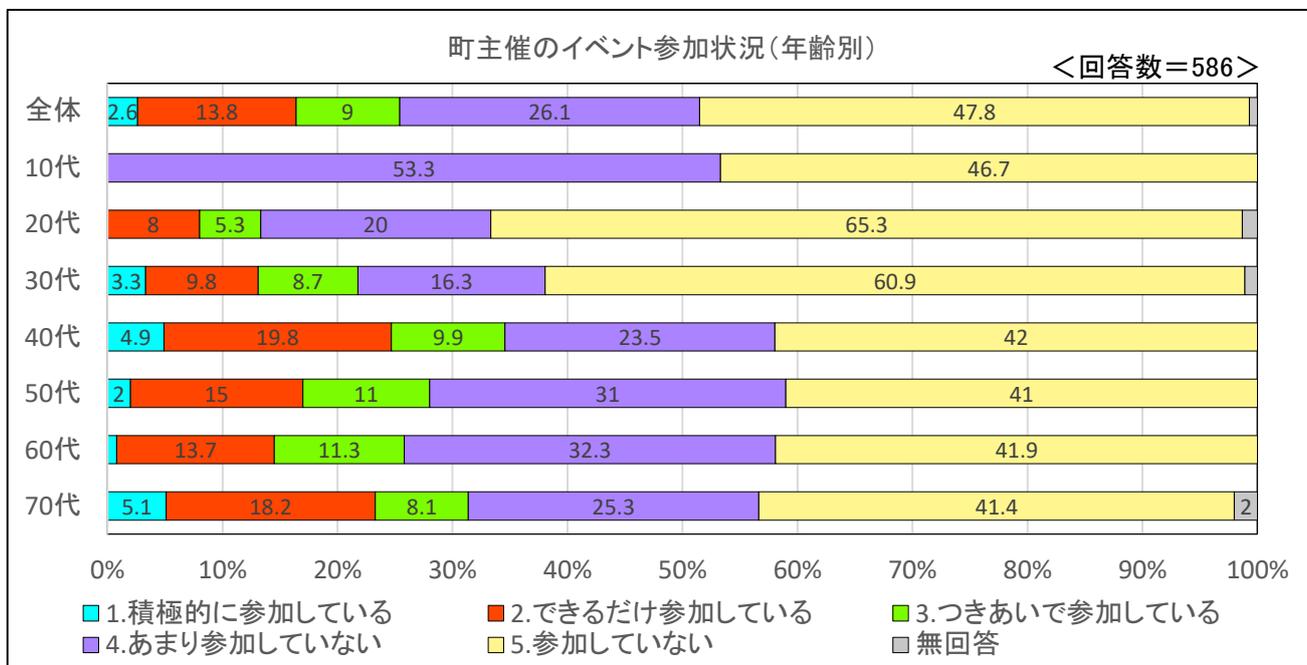


(3) まちや地域の行事等への参加について

①町主催のイベント

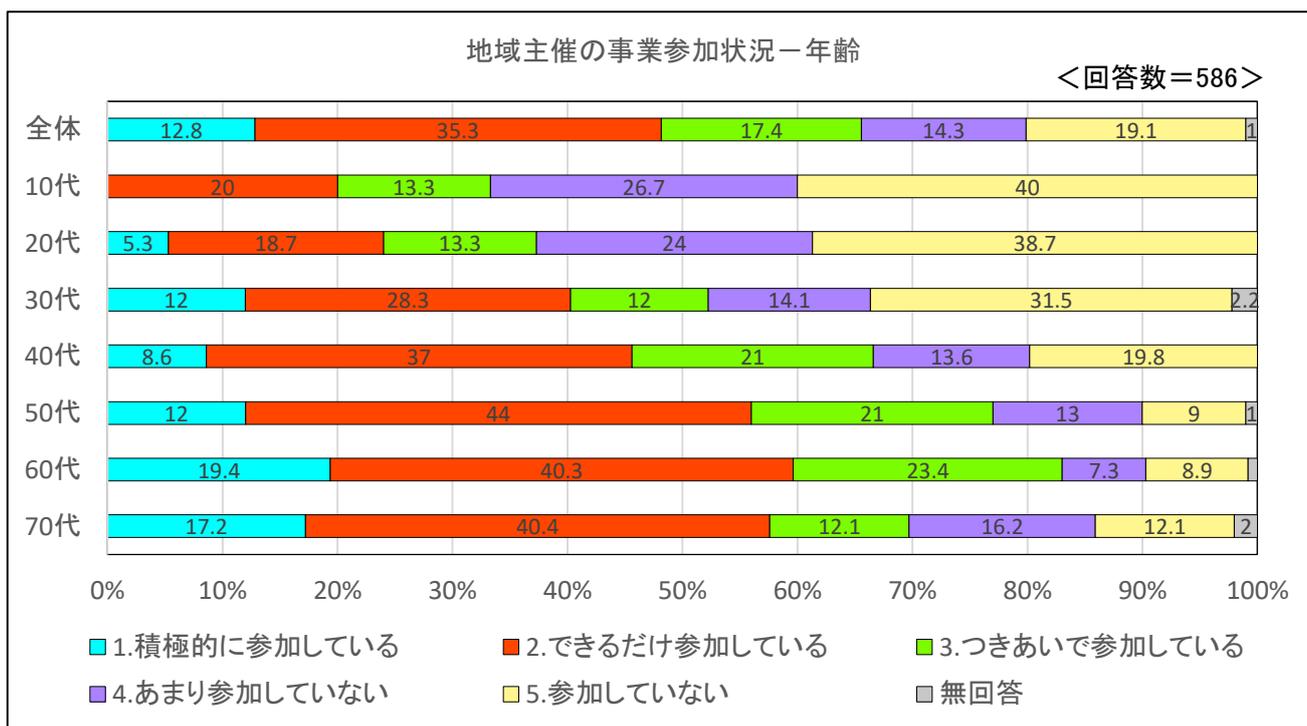
「参加している」と回答した人が25.4%で5年前のアンケートより29.6%減少しており、若い年代ほど「参加している」と回答する割合が低い傾向にあります。

不参加の理由として、「関心が無い」が40%で大半を占め、「忙しくて時間が無い」が27%でした。



②地域主催の事業

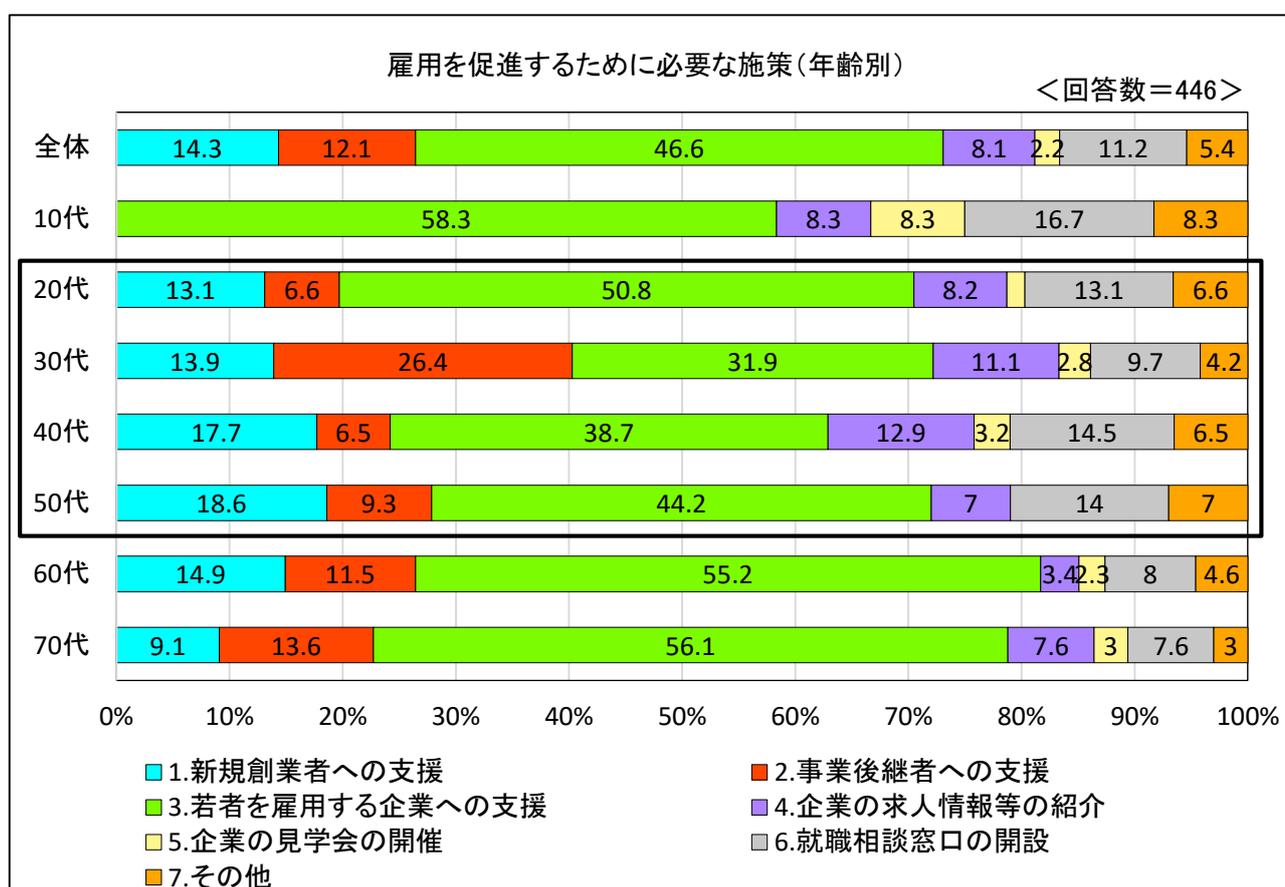
「参加している」と回答した人が65.5%で、参加内容としては「地域の惣事」、「地区運動会」などがあり、若い年代ほど「参加している」と回答する割合が低い傾向にあります。



(4) 仕事について

雇用を促進するために必要な施策として、「若者を雇用する企業への支援」、「新規創業者への支援」、「事業後継者への支援」、「就職相談窓口の開設」の順に多く、特に20代以下は「若者を雇用する企業への支援」、「就職相談窓口の支援」と回答した割合が多く、30代は「事業後継者への支援」、40代・50代は「新規創業者への支援」の割合が多い傾向にありました。

項目	回答数	割合
1. 新規創業者への支援	64人	15.1%
2. 事業後継者への支援	55人	13.0%
3. 若者を雇用する企業への支援	209人	49.3%
4. 企業の求人情報等の紹介	36人	8.5%
5. 企業の見学会の開催	10人	2.3%
6. 就職相談窓口の開設	50人	11.8%



(5) 移住・定住について

都市部から集落への移住者については、「受け入れたい」が約60%以上を占めています。希望する移住者については、「町内出身者(Uターン)」と「町外出身者(Iターン)」が同程度であり、「子育て世帯」、「独身の若者」が「シニア世帯」を大きく上回り、また、「起業家(新規創業者)」や「事業後継者」を望む声もありました。

また、移住促進に必要な施策については、「町の魅力の情報発信」、「移住相談窓口の開設」などの回答がありました。

どのような移住者を受け入れたいか(複数選択)

項目	回答数	割合
1. 町内出身者(Uターン)	278人	47.0%
2. 町外出身者(Iターン)	259人	43.8%
3. 独身の若者	106人	17.9%
4. 子育て世帯	215人	36.3%
5. シニア世代	64人	10.8%
6. 起業家(新規創業者)	142人	24.0%
7. 事業後継者	85人	14.4%

(6) 岩美町の未来への期待について(岩美中学生アンケート:全学年)

「買い物する場所がたくさんありにぎわいのあるまち」、「観光客が多く訪れる魅力的なまち」、「事件や事故、災害が少なく安心して暮らせるまち」、「レジャーやスポーツ、芸術文化が充実したまち」等の意見が多い傾向にありました。

項目	回答数	割合
1. 農業や水産業が盛んなまち	6人	2.4%
2. 働くところがたくさんあるまち	12人	4.7%
3. 道路や公園などの整備されたまち	15人	5.9%
4. 子育てのしやすいまち	10人	4.0%
5. 買い物する場所がたくさんありにぎわいのあるまち	52人	20.6%
6. 観光客が多く訪れる魅力的なまち	33人	13.0%
7. 地域の歴史や文化を大切にし、次の世代へ伝えるまち	11人	4.3%
8. ごみ処理や環境保全など自然環境の保全に取り組むまち	12人	4.7%
9. 事件や事故、災害が少なく安心して暮らせるまち	33人	13.0%
10. 地域住民が一緒にまちづくりに取り組むまち	3人	1.2%
11. 医療や福祉が充実したまち	7人	2.8%
12. 子どもやお年寄り、体の不自由な人にやさしいまち	21人	8.3%
13. 図書館などの学べる場所が充実したまち	8人	3.2%
14. レジャーやスポーツ、芸術文化が充実したまち	30人	11.9%

4 岩美町まちづくり委員会からの意見

まちづくり委員会では、20～60代の男女37名の委員により、町民主体でどのような取組を推進するのか、「やりたい事」、「やるべき事」、「出来る事」という視点で検討しました。

その結果、以下の取組を行うことが提案されました。

- 地域づくりに意欲のある町民によるネットワークづくり
- 町民主体によるイベントの開催
- 移住者の受入体制づくり（NPO設立、地区での受入体制整備、定住サポーター設置）
- 電子媒体を活用した魅力やイベント情報の発信

5 まちづくりの主な課題

現在、岩美町では、人口減少や少子高齢化が進行しているほか、町民の地域行事などへの参加は一部にとどまっており、まちづくりへの関心は決して高いとはいえない現状にあります。

このような状況が続くと、地域活動の担い手不足、消費量の減少による地域経済の低下、にぎわいの喪失などに繋がり、日々の生活を支えている地域コミュニティや地域経済の維持が困難となります。

一方で、アニメやマリンスポーツなどをきっかけに岩美町を訪れ、魅力にひかれ、繰り返し来訪し移住する方も増えており、中には地域でのイベント開催などを通じて地元の方と一緒に楽しくまちづくりに取り組み、地域の活性化に繋がる事例もみられるようになりました。

今後、人口減少や少子高齢化が進む岩美町において地域コミュニティや地域経済を活性化し、岩美町を持続、発展させていくには、町民一人ひとりがまちづくりに関心を持ち、自ら考え、みんなと思いを共有し、楽しみながらまちづくりに取り組み、官民一体となって協働のまちづくりを推進することが必要です。

《参考》岩美町に対する移住者や観光客の主な感想

岩美町に移住された方や、アニメやマリンスポーツなどをきっかけに観光で岩美町を訪れた方の主な感想です。

(良いと感じるところ)

- ・まちの人が気さくに話しかけ、道案内してくれるなど親切であたたかい。
- ・海の美しさをはじめ、自然豊かな景色に感動した。
- ・旬の魚介など地元の食材を使った料理が美味しい。

(不便だと感じる場所)

- ・岩美町の宿泊施設などの情報が得られにくい。
- ・飲食店やカフェなどの休憩場所が少ない。

6 主要課題と計画の体系

上記の2～5までの岩美町の現状、町民の意見等を踏まえた主要課題と計画の体制は以下のとおりです。

主要課題	総合計画の項目	目指すまちの姿
<ul style="list-style-type: none"> ◆町民主体によるまちづくりの推進が必要です。 ◆外部の視点も活かしたまちづくりが必要です。 ◆地域の安全を守る自主防災の体制が必要です。 ◆計画性のある健全な行財政運営が必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> (i) 協働のまちづくりの推進 (ii) 移住定住の促進 (iii) 安全で安心なまちづくり (iv) 健全な行財政運営 	<p>みんなで地域を創り いつまでも楽しく 暮らせるまち</p>
<ul style="list-style-type: none"> ◆子どもたちにふるさとを想う心や生きる力を育むことが必要です。 ◆町民が心豊かに学習やスポーツができる環境が必要です。 ◆人権・男女共同参画意識の高揚が必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> (i) 学校教育の充実 (ii) 社会教育の充実 (iii) 人権尊重社会の推進 	<p>ふるさとを想う心を育み 心豊かに暮らせるまち</p>
<ul style="list-style-type: none"> ◆若者の交流・結婚の促進が必要です。 ◆安心して出産・子育てができる環境が必要です。 ◆障がい者や高齢者等が健康で安心して暮らせる環境が必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> (i) 結婚の促進・子育て支援の充実 (ii) 保健・医療の充実 (iii) 福祉の充実 	<p>みんなで支え合い 健康で安心して 暮らせるまち</p>
<ul style="list-style-type: none"> ◆地域資源を活かした産業振興が必要です。 ◆雇用創出や地域経済の活性化が必要です。 ◆交通網や上下水道など生活基盤の充実が必要です。 ◆自然や環境に配慮したまちづくりが必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> (i) 農林業の振興 (ii) 水産業の振興 (iii) 6次産業化の促進 (iv) 商工業の振興 (v) 生活基盤の充実 (vi) 環境にやさしいまちづくり 	<p>美しい郷土を守り 地域の産業が栄えるまち</p>
<ul style="list-style-type: none"> ◆豊かな資源を活かした魅力ある観光地づくりが必要です。 ◆ジオパークを保全するとともに資源を活かしたまちづくりが必要です。 ◆国外との異文化交流や都市との交流が必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> (i) 魅力あふれる観光地づくり (ii) 山陰海岸ジオパークの活用 (iii) 交流の推進 	<p>豊かな資源を活かし 観光と交流で賑わうまち</p>